

●記念講演

大垣共立銀行の歩みと大垣産業の変遷

～郷土力企業を生み出す地域の力～

講師 土屋 嶠*

はじめに

1. 水と川、交通の要衝の地、大垣
2. 大垣の産業の変遷
3. 大垣共立銀行

はじめに

大垣共立銀行頭取の土屋でございます。

今日は日本地域経済学会の記念講演をしろというので、鈴木 誠先生と、後ほどシンポジウムでお話をいただきます堀 富士夫さんからお話をいただきました。今から数カ月前でありますので、いとも簡単に「はい、いいですよ」と。これが土屋の悪いところでありまして、だんだん日が来るにしたがって、はっきり言ってケロツと忘れていたのでありますけれども、テーマがいつの間にか示されていました。「大垣共立銀行」ここまではいいのでありますけれども、「大垣産業の変遷」加えて「郷土力企業を生み出す地域の力」これについても論ぜよということになりますとさあ困ったものでありまして、昨日あたりから、海老蔵ではありませんけれども、夜の街をほつついていて、ドカンとなぐられて入院してしまえば、今日の講演は行けないといういいエクスキューズになるのではないかと、夜の街をほつついたのでありますけれども、誰もなぐってくれない(笑)。

そんなわけで、今日は何とか40分間をと思って登壇しましたら、学会の先生をはじめ市長さんももう全部お話をいただきました。これで10分近く消費をしてしましまして、私もあと30分ほどお話をすればすむのではないかと考えてい



ます。また、大垣の経済について若干語ろうと思ったら、これもいとも簡単に小川市長が4分間でお話をしてしまわれました。水、繊維、そしてソフトピアを代表とするITと、大垣の産業を語るにはこの三つでおしまいではないかなと思いますが、私は若干違う観点からお話をさせていただきたいと思います。

お話をするときいつも冒頭に言うのでありますけれども、大垣共立銀行頭取の「頭取」というのはどこから来るのか。私が大学の商法、会社法で習ったときは、取締役頭から頭取という名前がついたというふうに聞いていたのですけれども、どうも正論のほうはこれは音頭取りから来ているようでありまして、歴史からひもといていくと、地域の経済を担う銀行、担えばいいのですが足を引っ張る金融機関もありますけれども、その頭取は地域経済の音頭を取っていかなければいけないのだと。金融というのは産業の血液でなければいけないというような定義もありますので、そんな思いで、今日は音頭取りになるのか足を引っ張るのかわかりませ

* 大垣共立銀行頭取・岐阜経済大学理事長

んけれども、時間をちょうだいしてお話をさせていたきたいと存じます。

1. 水と川、交通の要衝の地、大垣

よく大垣を語る、あるいは東京の人とか地域の人に「大垣」という名前をよく聞くのは、「私は学生時代に東京から大垣行きの電車に乗りました」これをよく聞くわけでありまして。皆さんもご承知のように、夜11時半か11時40分ぐらいに鈍行列車が、大垣に向けて出発をします。東海道線としてはおそらく最終の出発の電車でありまして「酔っ払って電車に乗ったが最後、着いてみたら大垣だった」。そんな話も聞くわけでありまして。そういった意味では、大垣駅というのは、まず若い人たちに大垣というイメージを植えつけるにはちょうどいい場所ではないか。

ちなみに西村京太郎、これは推理小説作家でありますけれども、『大垣行き340号M列車の殺意』等、大垣行きの推理小説をシリーズで二、三冊出しております。私も読んでみたのでありますけれども、あまりあの人は大垣へ来て推理小説を書いた覚えはない。ただ列車のダイヤをうまく突きまして、ちょうど松本清張のごとく、ああいうもので推理小説を成り立たせたのではないかと思いますけれども、本屋の店頭に行くと、たまに『大垣行き…』というのが、これは東京でも置いてありますから、本屋へ行って大垣の名前を知るのはいよいよ西村京太郎さんのおかげではないかなと思うのであります。できれば西村京太郎さんを名誉市民か何かにしてあげるのはいかがなものかということ、ここで提案をさせていただきたいと存じます。

そんなわけで、なぜ電車が、大垣で止まったか。ここにまた大垣の発展の秘訣の一つがあったのではないかと存じの方がおられましたら、それはそれとして聞いていただきたいのでありますけれども、かつて蒸気機関車の時代がありました。蒸気機関車が東京からずっと下ってまいります。すべての蒸気機関車は大垣で停車をいたしました。したがって、下りについては特急電車も必ず停車をいたしました。そして、後ろに

蒸気機関車を連結して、ここで水を入れ、そして関ヶ原の山を登っていきました。

したがって、蒸気機関車の時代、大垣は汽シャクと称しました。すべての電車が、大垣で止まり、そして関ヶ原を登った。後ろに連結した蒸気機関車はどうやって戻るかという、外して戻ってくるわけでありまして。詳しいことは抜きましても、戻るがゆえにもう一つ駅をつくらなければいけなくなった。それが新垂井の駅であります。垂井と新垂井、東海道線に同じ名前をつけて、上りと下りと違う駅がついたのはこの垂井だけでありまして、そういった経緯で新垂井の駅もできた。

もちろんもう電車にかわりまして垂井の駅も一つになりましたけれども、そんな感じで汽シャクがあった。その名残が電車区にありまして、皆さんもご承知のように室（むろ）をもう少し行ったところには、今はだいぶん少なくなりましたが、電車がたくさん停まっております。始発と同時に電車がスタートする。私などの中学時代、陸橋からのぞいてみると電車がいっぱい停まっていた。ああ、大垣というのはたくさん電車があるもんだなと思ったのは、おそらくそういった経緯であったのではないかと思います。

その電車もいつかアスベスト問題に遭遇いたしました。電車の中にアスベストがあるということで、その除去のために国鉄の職員が何人か携わったということで、労働問題にまで発展しかけたことがございますけれども、一つは大垣に水があった、そして交通の要衝であった。これが大垣の一つの象徴ではないかと思うところであります。

ちなみに、もう言うまでもありませんけれども、大垣は松尾芭蕉の「奥の細道」むすびの地でもあります。松尾芭蕉が大垣で逗留したときに、「蛤のふたみに別行秋ぞ」と、これで「奥の細道」は結んであります。この「ふたみに別行秋ぞ」はすべて水路につながっていくわけでありまして、大垣にはご承知のように水門川あるいは杭瀬川といった川がございます。それをもって桑名へ荷を積んで運んだといったところ

になってくるのではないかと思います。それはまた後ほどふれさせていただくところであります。

そして、何と申しまして、交通の要衝であるからには、いろんな形で東西の文化の融合の地であります。この間もテレビでやっておりましたけれども、エスカレーターで関西のほうは右側に乗る、それから東京のほうは左側に乗る。それからおでんを味噌で食べるか食べないか。あるいはウナギを焼くか蒸すか。このへんは大体岐阜、愛知、静岡、一部滋賀県の東寄りといったところで全部文化が分かれてくる。文化が両方に分かれるということは、イコール融合する場所であったのではないかとされているところであります。

いずれにしても、こういった交通の要衝にあった、あるいは水があった、川があったといったところが大きく大垣の産業形成に役立ってきたのではないかと思います。これだけ言うと、私もひょっとすると地域経済学会に入れてもらえるのではないかとと思うところであります。

2. 大垣の産業の変遷

それは差しおきまして、大垣共立銀行の歴史としてはもう明治時代からでありますので、明治のころからのお話をさせていただきたいと思えます。大垣共立銀行ができた明治20年ごろは、人口は2万人だったそうであります。その後、濃尾大震災あるいは日清戦争で大正時代に突入するわけですが、いずれにしても大正時代から大きな意味での産業の変遷が始まってきているわけでありまして。

戸田藩の産業政策を礎に育った近代産業

話は飛びますけれども、よく岐阜と大垣の違いを聞かれることがございます。特に銀行には金融庁だとか大蔵省・財務省の検査、監査が入ってきて、岐阜と大垣の違いは何ですかと聞かれます。これは私が直接答えたわけではありませんで、私の先々代の頭取が言ったのでありますけれども、大垣は武士のまちだ。岐阜は商人の

まちだ。

大垣の場合は、戸田藩が11代235年にわたってこの大垣の地をおさめていただいたのでありますけれども、戸田藩は産業を奨励し、そして文化を育てた。片や岐阜は殿様がいない直轄地であったので、文化あるいは産業というよりも、大垣等でできたものを売るつまり商業のまちに変わっていったということで、片や大垣は武士のまち、そして岐阜は商業のまちといわれたのであります。

また銀行のほうに話が戻りますが、日本全国で一番貸出金利が安いエリアは東海地区です。今から十数年前はよく「名古屋金利」といわれたのであります。今は「岐阜金利」といって、これが一番低い。ときどき他府県で低いところもありますが、それは特殊な例であります。

なぜ低いか。これがなかなか答えが出ないのですけれども、一つ言えば、金融機関の競争がかなり激しいというところもありますし、それから、先ほどの話に戻るのですが、岐阜は商人のまちで、商人の方はみんなそろばんをはじいて仕事をしなければいけない。まさに1銭1厘1毛の時代であります。今の時代に直せば0.001%の時代であります。どうしてもそういった形で金利に細かくなってきたのだらうというのが私の説でございます。これだけ言えば、ひょっとすると日本地域経済学会に入れてもらえるのではないかとしたりもしているわけです(笑)。これは私の説でありますので、必ずしも定説ではないというふうにご理解をしておいていただきたいと思います。

この戸田藩が何をしたかということ、杭瀬川だとか水門川はやがて揖斐川の本流に入っていきますから、それを水路として通って、桑名へこの産業でできた繊維だとか陶器だとかいったものを運び、逆に桑名のほうから大垣へ物を運び入れた。大垣の船町には船町港がありますけれども、そこに陸揚げをし、やがて食品問屋が発達し、江戸時代から明治にかけては米とか生糸、あるいは養蚕といった産業の育成につながってきた。

そしてなおかつ、大垣よりも少し西、不和郡

の赤坂村には大理石、石灰といったものを水運を使って運んでいった。すなわち水路も大垣の産業の変遷の一角を担ったのだらうと考えられるところではないかと思えます。

そして、戸田藩自身としては、そういった産業を育成し、やがて明治、大正になりますと、いずれにしても電力をつくらなければいけないということで、揖斐川電気工業、当時携わった人は戸田鋭之助さんであります。これは大垣共立銀行の初代の頭取にもつながり、なおかつ戸田藩の末裔にもつながるのでありますけれども、そういった形で武家時代の戸田藩、あるいは戸田さんが揖斐川電気工業の設立にも加わったのではないかと考えられているところであります。

さて、ちょっと画面を見ていただきます（スライド上映）。これが大垣のいわゆる上場会社です。先ほど来学長もお話をいただいたイビデンさん、太平洋工業さん、セイノーホールディングスさん（西濃運輸）、そして大垣共立銀行であります。いずれにしても設立は昭和46年以前、人口14万程度の人口を擁するまちに四つの上場会社がある。これは調べていただければおわかりいただけるのですけれども、他にはまずない。これだけの人口のまちで上場会社がそろった。

もう一つ見ていただきたいのは、これは全部地域の名前をかぶっているというところであり、今の上場会社になりますと、わけのわからない片仮名をつけたり、アルファベットをつけたりしていますが、これは全部地域の名前です。イビデンは揖斐川電気工業。揖斐川電力ではありません、揖斐川電気工業がイビデンにつながっている。それからセイノーホールディングス、これは西濃地方、西濃運輸からこれがきた。そして、大垣共立銀行はこの地元の大垣。

太平洋工業さんは、もし関係者の方がおられたらあれですけども、太平洋工業の創業者は小川さんであります。ここまで言えばもうおわかりいただけるかもしれませんが、小川がだんだん注いでいって太平洋に出るということで、それを志として太平洋工業と、いずれにしても地域の名前をつけた会社です。ほかにも日本耐酸塚さんとか大垣鉄鋼さんとかいろいろいらっ

しゃいますけれども、全部地域の名前をつけた。

それが、大垣共立銀行は別にしても、今日本に冠たる企業になり、なおかつ堂々とこの地域の名前を名乗っている。それが全国ネットになった。これは大変素晴らしいことではないか、これはわれわれ郷土の誇りであろうと思うところであります。いずれにしてもこれだけの四つの上場企業を中心に、いろんな形で世の中が進んでいったわけであり、

戦中・戦後の歩み

もう一回いろんな意味での地域産業を見ますと、先ほど繊維ということを申し上げました。一方を見ていくと、こういった繊維は、先ほど申し上げたとおり、豊富な水を利用して岐阜県下には紡績工場がこれだけありました。『岐阜県史』からピックアップしただけでもこれだけ集約されてきたわけであり、大垣の方であれば、当然のことながら紡績工場の歴史にはかかわり合いを持ってきたのではないかと思います。そういった意味で、いわゆる紡績工場働く女工さんについても、九州あたりからたくさん来ていただいたと聞いております。

私の近くにも紡績工場があったのでありますが、私の子どものころは、お盆のころになると、その紡績工場から盆踊りの歌が聞こえてくる。なぜかという、鹿児島とか九州に帰りたいでも帰れない女工さんのために、工場がお盆休みのときに盆踊り大会を催している。それを目当てに、またオートバイだか自転車だかで青年たちが集まってくる。そんな光景が見られたり、あるいは聞かれたのもこの紡績工場があったからではないかと思えます。

やがてこの紡績工場も太平洋戦争によって繊維というものの息を止められてしまいました。大日本紡績は昭和18年に住友通信工業にかわり、19年にはNEC（日本電気）の大垣工場になりました。ちょうど駅の北側でありますけれども、そこで電話とか探知機といったものをつくり上げていきました。そして西大垣工場では航空燃料をつくったと聞かれています。若林紡績は落下傘をつくり始めました。それから、三菱重工

に工場を貸して、航空機のエンジンをつくりました。鐘紡については軍隊向けの毛布をつくったり、フランネルをつくったり、東亜紡織にいたっては軍服をつくったということで、繊維も大きく軍需産業に名を変えていったところであります。

一方、機械工業は逆に、例えば太平洋工業さんでありますと航空機とか自動車に向けてのタイヤバルブあるいはバルブコア、これは陸海軍向けの需要でかなり忙しかったと聞いています。大垣鉄鋼はまさに旋盤、これも工作機械のための旋盤づくりに追われた。

それから日本合成化学工業は酢酸をつくったのですが、これも軍需用に衣替えをして盛況でした。それから揖斐川電気工業はカーバイト、これはカーボンのほうでありますけれども、カーボンは探照灯用というのですから、おそらく夜中に照らすようなものの需要に忙しかった。以下、神戸製鋼所、東海航空機あるいは川崎重工なども航空機に携わってきたというところであります。

流通でいえば、西濃運輸さんは県下の7業者を集めて統合し、国土防衛自動車部隊ということで軍の物資を輸送した。

そして、戦後は朝鮮動乱。まさにこれはイトヘン、カネヘンの時代になりました。あるいは戻ってまいりました。それから後は、もう言うまでもありませんけれども、昭和30年代は重化学工業が発達し、太平洋ベルト工業地帯、あるいは伊勢湾臨海工業地帯といったところのかわりができ、なおかつものづくりになってくるとどうしても鉄がほしいということで、中部に東海製鉄所が昭和33年に出来上がっております。これも地元からの要望といった形でできてきたのではないかと思います。

そして2度のオイルショック、あるいはバブル崩壊といったものを経て、量から質への時代へと変わった。まさにエレクトロニクスといったところにかかわってくるのではないかと。私は前座でありますので、こういったインフラあるいは情報産業あるいは企業間連携といったことについては、後ほどシンポジウムのほうでお話

があるのではないかと思います。

3. 大垣共立銀行

今日はもう一つ、大垣からの地域産業政策の提案ということでありますけれども、私は大垣共立銀行の歩みについてもふれておかなければいけません。

大垣共立銀行についていえば、明治29年に創業しまして、もう120年弱の歴史をえているわけです。この120年近い歩みを話しますとまた30分以上かかりますので、まず今の大垣共立銀行を見ていただくために、大垣共立銀行のDVD、これは株主総会等で放映しておりますので、一部ご覧いただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、ちょっと辛抱して見ていただけたらと存じます。

大垣共立銀行の紹介～DVDより

国内の金融機関に先駆けた年中無休のATM、全国の金融機関に先駆けた年中無休の窓口営業、ものに対するハイテクノロジーが求められた時代から、心や精神に対するハイサービスが求められる時代へと変化する中、大垣共立銀行は、全国の金融機関に先駆けたお客様目線でのサービスをお届けしてまいりました。

昨年10月、こうした取り組みが評価され「ハイ・サービス日本300選」を受賞。とりわけ先駆的で、他の企業の模範となる取り組みを行っているとして、サービスの高付加価値化の分野での受賞となりました。

皆様のもっと近くに、共に手を取り合って、大垣共立銀行はサービス業としての歩みをクレッシェンド。より強く、より大きく皆様とハーモニーを奏でながら一步一步着実に進めています。

それでは、大垣共立銀行が奏でるハーモニーをご紹介します。

大垣共立銀行にはお客様目線でのさまざまな店舗が存在します。その一つ、スーパーひだ1号。もっと便利に銀行を利用できたなら、もっと近くに銀行があったなら。その思いを形とした店舗、銀行機能をぎっしりと詰め込んだ車が、

装いを新たに飛騨地区を駆けめぐっています。

こうした便利にご利用いただける店舗が、昨年9月、半田市に誕生いたしました。半田支店・コンビニプラザ半田です。全面ガラス張りの外観、雑誌コーナーに無料喫茶コーナー、まさにコンビニ風のこの店舗、プロデュースしたのは大垣共立銀行の研修制度でコンビニ店長を経験した行員たちでした。

銀行とは違ったコンビニのサービス、特徴をふんだんに取り入れた店舗。まるで家にいるかのように落ち着いて相談できるブースを設置するなど、入りづらいという従来の銀行イメージを払拭した来店しやすい店舗。便利に利用できる新しい形の店舗が仲間入りしました。

岐阜県、愛知県下のサークルKサンクスなどおよそ1,300店に設置された、早朝から深夜まで年中無休でご利用いただけるコンビニATM。そして、各金融機関とのATM相互無料開放。これからの大垣共立銀行はお客様目線での店舗、そしてATMのネットワークを、ハーモニーを奏でながら構築してまいります。

刻々と変わり続ける社会。求められる地域経済の活性化、大垣共立銀行では、こうしたことに対する取り組みも強化しています。環境にやさしい自動車社会の形成を目指して、マイカーローン「エコシリーズ」。エコカー減税対象車など環境にやさしい自動車をご購入される方に、ご融資金利の面からお手伝いしています。現在お持ちのお車より低燃費となれば、エコカー減税対象車以外でもご利用は可能。こうした燃費がよくなることを基準に金利を設定する自動車ローンは、全国の金融機関で初の取り組みとなります。

東海北陸自動車道全線開通により結びつきが強くなった東海、北陸の経済圏。業務提携関係にある北陸銀行とともにビジネスサミットを開催しました。販路拡大を目指す企業と、特色ある商材、サービスを求める企業。その架け橋としてビジネスチャンス創出の場をご提供しました。

また、全国各地の地方銀行と共同で、東京、さらには海外、中国でも商談会を開催。それぞれ

多くの地元企業が参加し、地域経済の発展に向けた商談という美しいハーモニーが奏でられました。

このほかにも伊藤忠商事との連携により、地元企業が誇る商材、サービスを全国に発信するお手伝いもしました。

こんな形でも地域経済の活性化を。中日ドラゴンズの選手の活躍で金利が上乘せされるVIVA!!ドラゴンズ「スーパー打率定期預金」。平成7年から発売されているこの定期預金を今年も発売しました。中日ドラゴンズの活躍は地域に大きな経済効果をもたらします。これからも皆様とともに応援することで地域経済とのハーモニーを奏でてまいります。

舞台の幕が下りた後、拍手で出演者を再びステージへと迎え入れるカーテンコール。事業経営のフィナーレを迎えた事業者の方へ、第二の人生の幕開けを応援したい。そんな思いから生まれた商品、事業整理支援ローン、愛称「カーテンコール」。前向きな自主廃業を資金面からサポートしています。

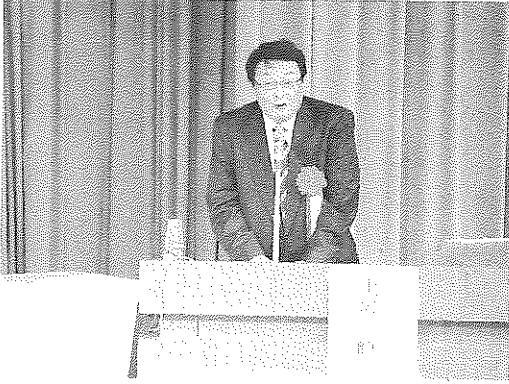
こちらは女性ならではのやさしさでお届けする幸せとのハーモニーです。不妊治療関連ローン「Futari-de」。昨年12月、大垣共立銀行の女性のみで構成されるL'sプロジェクトによって世の中に送り出されました。

このほかにも、少子高齢化社会の中で多様化するニーズにおこたえする取り組みがあります。事業者応援プロジェクト「We-Medica」。福祉、教育、医療、介護、こうした分野の経営をお手伝いするため、事業別に専任サポートデスクを開設。より専門性の高いサポート体制を構築しています。

さらに、シニア世代のお客様へ積極的なサービスを展開するため、今年4月シニアスマイル課を新設。大垣共立銀行はこれからもお客様のさまざまなニーズにおこたえしてまいります。

清掃活動や寄付を目的としたアルミ缶などの収集活動。平成8年に発足した社会貢献推進委員会。創立110周年を期に始まった新たな地域とのつながり。そして小さな親切運動。大垣共立銀行グループ役職員が中心となって、ご覧

のような活動を自主的に行っています。地域社会への貢献は地域金融機関としての使命。こうした活動を通し、これからも地域の皆様と心のハーモニーを奏でてまいります。



お客様目線で地域とともに

もうあと数分で終わるところでありますけれども、いろんな形のサービスができてきました。例えば「カーテンコール」企業再生支援は、もう経営が成り立たなくなった企業に対して、何かお金を融資することはできないか。どうしようかなと思って迷っている人たちに、お金がありますからもうこれですべてやめられたらどうですか、あるいは次のステップへ向けてジャンプアップされたらどうですか。そういうローンができないかと言われたのが、今日、後ほどパネリストとして登場していただける岐阜県商工労働部の江崎部長さんでありました。

大垣共立銀行に来られまして「大垣共立銀行で何とかこれができないか」「じゃあやってみましょう」ということで何とかできました。ネーミングはどうでしょうか。若い人たちの力でいろいろ考えました。最初はグッバイローンだとかいろんな話が出ましたけれども、最後に「まさかこれはだめでしょうね」と担当部長が出してきたのが「カーテンコール」でありました。

カーテンコールというのは、本当に今までお疲れさまでした、こうして引き下がる部分もありますし、ひょっとしたらもう一回カーテンコールで舞台へ戻って、演奏あるいはアンコールにこたえることもできるのではないかと。

もううまくできて、これについては今数件のお申し出が県内外から来ております。

江崎部長さんが県内をくまなく回っておられて、ふとそういう声もあるということをおっしゃっていただいた。それを何とかできないかと大垣共立銀行は考えた。それがカーテンコールであります。

それから不妊治療ローンも日本で最初にいたしました。これも大垣のある不妊治療をやっているお医者さんが来られて「実は不妊治療というのはものすごくお金がかかるし、赤ちゃんがほしい人たちにとっては大変な苦痛を伴うものです。何とかお金を融資できませんか」と。これも不妊治療ローンにつながり、なおかつ、もう少しうまく赤ちゃんができれば、大垣共立銀行からお祝い金を差し上げますよというところまでいきました。

私が岐阜県内のあるところへ納品に行っておりましたら、うら若き女性がおりました。「なんでこんなところにいるんだ」「実は離婚したんです。だから子供を1人、2人抱えて大変なんです」「慰謝料もらえなかったの?」「裁判をかける費用もありませんでした」。そこから生まれたのが慰謝料ローン、離婚訴訟ローンであります。

そうしたら、また次も女性から出ました。「私は子どもを抱えて大変だ。何とか銀行で融資してもらえませんか」。これがシングルマザー応援ローンであります。しかも大垣共立銀行のやさしいところは、これをあるメディアの人に話したら「考え方が違いますね」と言われたのでありますけれども、子どもが1人いる場合と2人いる場合と金利が違います。複数のほうが金利が安い。もちろん子育てを応援する観点です。

普通の金融感覚からいえば、子どもが多いほど生活費がかかるからリスクが高い。したがって、金利は高くなるのが普通なのであります。大垣共立銀行の場合は逆。それが少子高齢化対策にもつながってくるのではないかと。

こういったことで、多くの人からいろんな形でご提案をいただき、それがいろんな形でサービスあるいは新商品の開発につながっていくわけでありまして。

また、先ほどご紹介したようなビジネスサミットを、先般も東京でほかの地方銀行と共同して開催をいたしました。地元から40社近い出展をいただきました。その出展された食品業界の方が言われるには「東京に営業所を持つのは大変です。でも、こうやって小さなブースで、出展料にしても数万円を出して出展すれば、多くのバイヤーの人が来てくれます。もう十分効率としては高い。1日間でけっこういい仕事ができるんです」という賞賛の声をいただきました。

地域の経済というのは、こういうようにいろんな形で金融機関も一緒になって考えてやっていかなければいけないし、そして、地域の人たちがより幸せになるためにいろんな形で応援をしていかなければいけないと思うところであります。

大垣共立銀行は、ATM一つとりましても日本に先駆けてサンデーバンキング、日曜日にもATMをオープンさせました。そして、平成6年には365日。これも国内の金融機関で初めてです。サービス業というのは絶えずお客様の目線で考えていかなければいけない。365日、場合によっては24時間こういったサービスができないか。朝9時にシャッターを開けて、3時になったら閉める。これではとてもサービス業とはいえない、銀行であろうということ、サービス業への転換を図りました。

これも地域からの声であります。私が9時近くに大垣共立銀行の本店に出勤すると、朝ATMの前に何人かの人が並んでいらっしゃいました。なぜ並んでいるのか聞きましたら、当時は8時45分からATMが使えるようになっていたわけです。考えてみれば世の中というのは大体8時から動くのでありますから、8時からオープンできないかと言いました。即刻8時になりました。これも日本で一番早い開始時間のATMでありました。

そうしたらまた次の声が出てきました。工場通勤の方からであります。工場が開くのは8時からだ。通勤時間帯は7時だ。7時からATMをオープンできないか。それにも大垣共立銀行は対応いたしました。日本一のモーニングバン

クと称し、なおかつ本当は手数料をいただくのであります。このへんの喫茶店と一緒にモーニングサービスと称して手数料はいただいておりません。

サービス業というのは大変でして、朝7時からやろうと思えば、ATMを動かすためにコンピューターを動かさなければいけません。そのために何人かの行員たちは出勤をしなければいけない。大体5時あるいは6時には出勤して、ATMの準備を始めなければいけません。その行員がいる家庭にとっては早起きをしなければいけない。4時、5時に起きて朝ご飯の準備をしなければいけない奥さんもいらっしゃるでしょう。まさにライフサイクルまで変えてしまう。サービス業というのはそこまでやっていかなければいけないのではないかと思います。絶えずサービスを供給し続けてまいりました。お客様目線でのサービスを供給してまいりました。

先ほどの半田コンビニ店長たちの考えだした店舗でありますけれども、日本間の相談室があります。畳の部屋であります。足が投げ出せません。そこになんと去年の暮れ、おばあさんがやってきて編み物を始めたそうであります。ついに銀行の窓口で、銀行の待合室で編み物をするおばあさんの光景が見られました。

先般もまたのぞきにいつてまいりました。簡単に腰かけられるいすに座りながら、雑誌がたくさん置いてあって、かつ銀行はコーヒーでお金を取るとしかられますので無料で差し上げているのであります。その無料のコーヒーを飲みながら雑誌を読まれていました。かつてそういった光景は銀行にはおそらく見られなかった。

やはりサービス業というのはお客様目線で絶えず新しいものに挑戦し、少しでもいいから、1回でもいいから、用がなくてもいいから銀行に来ていただける。そういう店舗を目指していかなければいけない。ATMもしかりであります。365日24時間。そしてATMそのもの自身、ATMはただお金を引き出したり振り込むだけの機能ばかりではありません。一度大垣共立銀行のATMをご覧いただけたらと思います。

大垣共立銀行はおかげさまで『ダイヤモンド』

誌の「つきあいたい銀行ランキング」で第1位に選ばれました。2006年から2007年以降はどうなったかというと、『ダイヤモンド』誌はその後調査をやっておりませんので、これで最後であります。

それから、日経金融ランキングでもこういったランキング、そして、先ほどDVDでも紹介をさせていただきましたけれども、2009年「ハイ・サービス日本300選」に選出をされました。これも経済産業省絡みの賞であります。

こういう形で郷土力を生かしたというか、こういったことができるのも、地域の皆さんにより高度な、そしてより身近な、そしてより使いやすい、わかりやすいサービスができないか、これに絶えず挑戦しているところであるからだと思います。

本題のテーマとはかけ離れたかもしれませんが、大垣共立銀行のプレゼンスの一端をご紹介して、基調講演にはなりませんでしたが、お話にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

